

エンジニアリングITのチカラで、持続可能な未来を創る企業へ

図研の事業目的は、ITによって製造業のエンジニアリング・プロセスを効率化していくことです。エンジニアリング・プロセスの効率化は、設計や製造のみならず、調達、サービス業務の効率化を通じて、サプライチェーン全体で地球環境への負荷低減にも貢献することができます。また、図研の技術は、省エネルギー、小型・軽量化を目指す製造業の製品開発に無くてはならないものであり、そうした製品が普及することが広く持続可能な社会の実現にもつながります。この「持続可能な社会の実現」という視点を経営戦略、成長戦略立案の中により明確に取り入れ、提供できる製品やソリューションの幅をさらに広げていくことで、持続可能な未来に貢献していく企業を目指します。

マテリアリティ（重要課題）

マテリアリティの特定において、図研グループの事業に及ぼす外部環境の変化やステークホルダーからの期待を踏まえて課題を抽出し、各課題についてリスク・機会の視点で重要度を評価し、以下の3つを重要課題として特定しました。

	エンジニアリングITによる 持続可能なモノづくりへの貢献	製品開発の効率化やスマート（知能）化を実現するソリューションへの開発投資を強化し、技術伝承や人材不足、環境負荷の低減などのモノづくりを取り巻く課題解決に貢献します。また、当社のエンジニアリングITの知見を活かし、お客様企業内のデジタル人材の育成やリスクリングを支援するサービスを拡充します。
	人的資本の拡充	ソフトウェア事業の源泉である人的資本を拡充するため、多様な人材がいきいきと働き、長期にわたりキャリア形成ができる職場環境を目指します。
	機動的かつ 健全なガバナンスの確立	変化の激しい事業環境に迅速かつ機動的に対応し、適法かつ適正で健全性の高い企業活動を行うため経営体制を強化します。

主な取り組み

女性活躍支援

多様な視点や価値観の存在が企業の成長につながると考え、男女、国籍を問わず適材適所の人材配置を行っています。そして、適材適所の考え方にに基づき、女性の採用と基幹職への登用を促進しています。また、女性のキャリア形成支援として、女性が安心して長期間働くことができる職場環境や制度を備えています。具体的には、各種休暇制度や小学校3年生修了までを対象とする法定期間を上回る短時間勤務制度などを導入し、仕事と育児の両立を支援しています。

リモートワーク制度

自然災害リスクに備え、社員の生命と安全を守り、事業の継続性を確保するために、リモートワーク制度を導入しています。会社での勤務と自宅での勤務を組み合わせた働き方ができる環境を整えています。

デジタル人材の育成

社員のリスクリングのため、外部研修を活用したIT・デジタル研修を実施し、幅広いスキルを兼ね備えたデジタル人材の育成を推進しています。また、社員自らITスキルを高めることを奨励し、IT資格の取得に応じた報奨金制度を導入しています。

次世代プロジェクト、エンジニア支援

モノづくり環境の発展に貢献するため、モノづくりを通して社会課題の解決を目指す次世代プロジェクトの支援や未来のモノづくりを担うエンジニアの育成支援に積極的に取り組んでいます。

サステナビリティに関するその他取り組みは、コーポレートサイトに掲載しています。

<https://www.zuken.co.jp/sustainability/>



持続可能なモノづくり環境の実現に向け、事業を通じて社会課題解決に取り組んでいます

環境に優しい水素燃料電池車の開発効率化に貢献

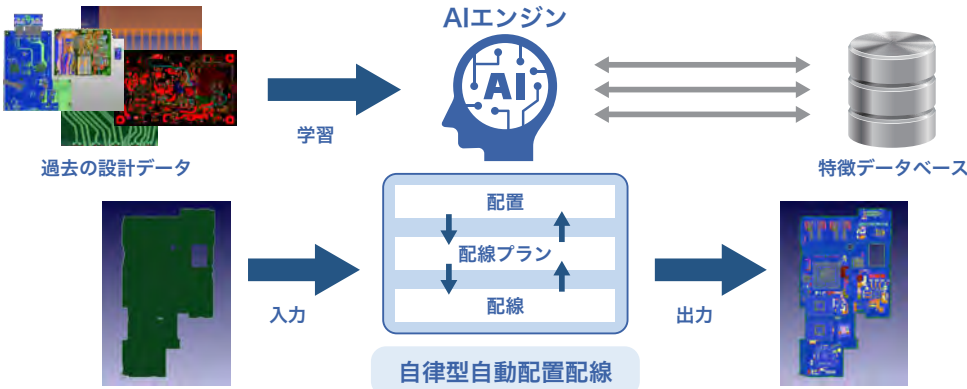
水素駆動システムを開発するスイスの GreenGT 社は、水素燃料電池車のプロトタイプ開発において図研の電気制御設計システム E3.seriesを採用しています。プロトタイプ開発では、短いスケジュールのなかで、安全性の担保された高品質な製品開発が求められます。同社は、水素燃料電池車向けの燃料電池システムや駆動システムの電気設計において、E3.seriesを活用することで回路設計やワイヤハーネス設計の業務を効率化し、開発期間の短縮を実現しています。



製造業の人材不足問題の一助に。AI活用でプリント基板設計を革新

近年の電子機器の小型化・高機能化に伴い、電気設計に関わる工数は増大しています。また、エンジニア不足も深刻化し、モノづくりの省力化・自動化が製造業における共通課題となっています。図研は、この課題に対し電気設計の作業効率を大幅に向上させるソリューションとして、AIを活用したプリント基板用の自動配置配線機能「Autonomous Intelligent Place and Route」の開発を継続的に行っています。この機能により、従来の機械的な自動配線ではなく、設計者の嗜好や特徴を反映した人手に近い自動配置配線を実現することを目指しています。

設計データを学習する特徴データベースを活用



Autonomous Intelligent Place and Route

世界をリードするソフトウェアエンジニアの育成を支援

モノづくり環境および文化の発展に貢献するため、世界をリードする組込みソフトウェアエンジニアの育成を目的とした競技大会「ETロボコン」に協賛しています。また、図研からも新入社員のチームが参戦し、ソフトウェアの企画、設計から開発までの一連のプロセスを習得し、実践的な問題解決学習 (Project-Based-Learning) の場として新人エンジニア育成に活用しています。

